



ロシア軍は直ちにウクライナへの攻撃を中止せよ！

国際秩序を破壊する軍事攻撃に対する抗議声明

ロシア軍は2月24日、世界が注目する中でウクライナへの侵攻を開始した。報道によると、ロシア軍は首都キエフなどの軍事施設をミサイルで攻撃し、制空権を掌握すると共に、地上部隊が国境を超えて北部や南部に侵攻しているという。

国連の常任理事国でもあるロシアの蛮行は、ウクライナという主権国家に対するあからさまな侵略行為であり、第二次大戦後に築かれた国際秩序の基盤を根底から破壊する行為であり断じて認めることは出来ない。

プーチン大統領は米国主導の北大西洋条約機構（NATO）の「東方拡大」継続はロシアの脅威であると語り、ウクライナ侵攻はウクライナ国内のロシア系住民の保護が目的であると自らの行為を正当化する。

しかし、すでに多くの犠牲者が発生し、今なお戦火が拡大し多数の人命が危険にさらされ、町が破壊され脱出しようと逃げ惑う人民の姿を見れば、ロシアの主権国家への攻撃は正当化できるものではない。

ロシア軍は侵攻を即刻中止すべきである。

ロシアは2014年にもクリミア半島の併合という侵略行為を実行したが、国際法を無視し、軍事力を背景にした「力の外交」は日本を含めた国際社会の秩序を破壊しかねない行為である。

ウクライナ危機以来、石油、天然ガス価格は上昇の一途である。今後も一層の高騰は避けられない。世界がコロナ禍から経済回復を目指す中でのロシアの侵攻は逆風でもある。エネルギー価格は私たちの生活にも影響が必至であり、決して他人事ではない。

日本政府は直ちにロシアの侵攻を中止させるための外交努力と共に、私たち国民生活の防衛を行うべきである。

再度言う。ロシア軍は直ちにウクライナへの攻撃を中止すべきである。

私たちJR東労組東京地方本部は、あらゆるテロにも戦争にも反対である。私たちは労働組合として、組合員の雇用と労働条件を守り抜くと共に、その前提である平和を守るために、国際社会との連携のもとに平和・人権・民主主義を守り抜くためにたたかうことを述べ、抗議声明とする。

2 0 2 2 年 2 月 2 5 日
東 日 本 旅 客 鉄 道 労 働 組 合
東 京 地 方 本 部 執 行 委 員 会